

大阪は‘まち’がほんまにおもしろい



# 七曲りの街道に込められた秀吉の罭

## ～関目神社から榎並城跡を辿りながら～

秀吉が伏見城から大坂城に行き来するために整備したという京街道。大坂城防衛のため、秀吉の策略で七曲りの街道にさせられたとか。鎌倉時代には猿楽の座が繁栄して、文化勃興の地となりましたが、戦国時代には三好一族の戦乱に巻き込まれ、幕末にも新選組や明治天皇が行き来して動乱の舞台となりました。京街道が見てきた、紆余曲折の歴史に触れて下さい。

### ①京街道

秀吉が隠居先の伏見城から大坂城に行き来するために、毛利家に造らせました。淀川の左岸で、現在の京阪電車沿線にあたります。大名の参勤交代にも使われました。近年、整備され、大阪城京橋口から何kmと刻まれた石碑が所々に建っています。関目のあたりには「関目七曲(ななまがり)」と呼ばれる湾曲した道が残されています。大坂城防衛のため、道路を数回屈折させ、大坂城下にまっすぐ進めないようにすると同時に、敵の進軍を俯瞰して、その陣容や兵数を察知できるように配慮したと伝わります。

### ②明治天皇聖蹟碑(西井茶屋址)

慶応4年(1868)3月21日、江戸へ向かって官軍が進行する中、15歳の明治帝が大勢のお供を連れて、京の御所を出立しました。京街道を西へ下り、1泊目は淀、2泊目は守口、23日になって、関目の西井茶屋で休憩。石碑はその折りのものです(大正年間の京街道は伏見～大坂間は徒歩約6時間ほどの距離でした)。その後、明治帝は北御堂に2ヶ月近く滞在。この間に江戸城が無血開城されました。

### ③関目神社

「関目」という地名は中世の榎並荘(近衛家の荘園)の時代からあり、この地に見張り所(目で見る関所)があったことから名付けられたといわれます。関目神社の正式名称は須佐之男尊神社といい、天正8年(1580)、秀吉が大坂城築城の際、鬼門にあたる当地に、鎮護のため「毘沙門天」、「牛頭天皇」を勧請し、祠を建立したのが起源といわれています。また西井茶屋にあった明治天皇御駐蹕之跡碑が移築され、「明治帝が関目で休憩の折、当地の農民を励ました」とあります。

### ④榎並講の祠

昭和初期、この辺りで大峰山信仰が流行し、男の子は13歳になると1泊2日で大峰詣をしました。厳しい行は青年への通過儀礼でした。大峰山は熊野から吉野にいたる、日本三大修験場の一つで、信仰者の集まりである講の祠は昭和8年(1933)7月に建てられ、現在でもご近所の方々の手で手厚くお祀りされています。

### ⑤来迎寺

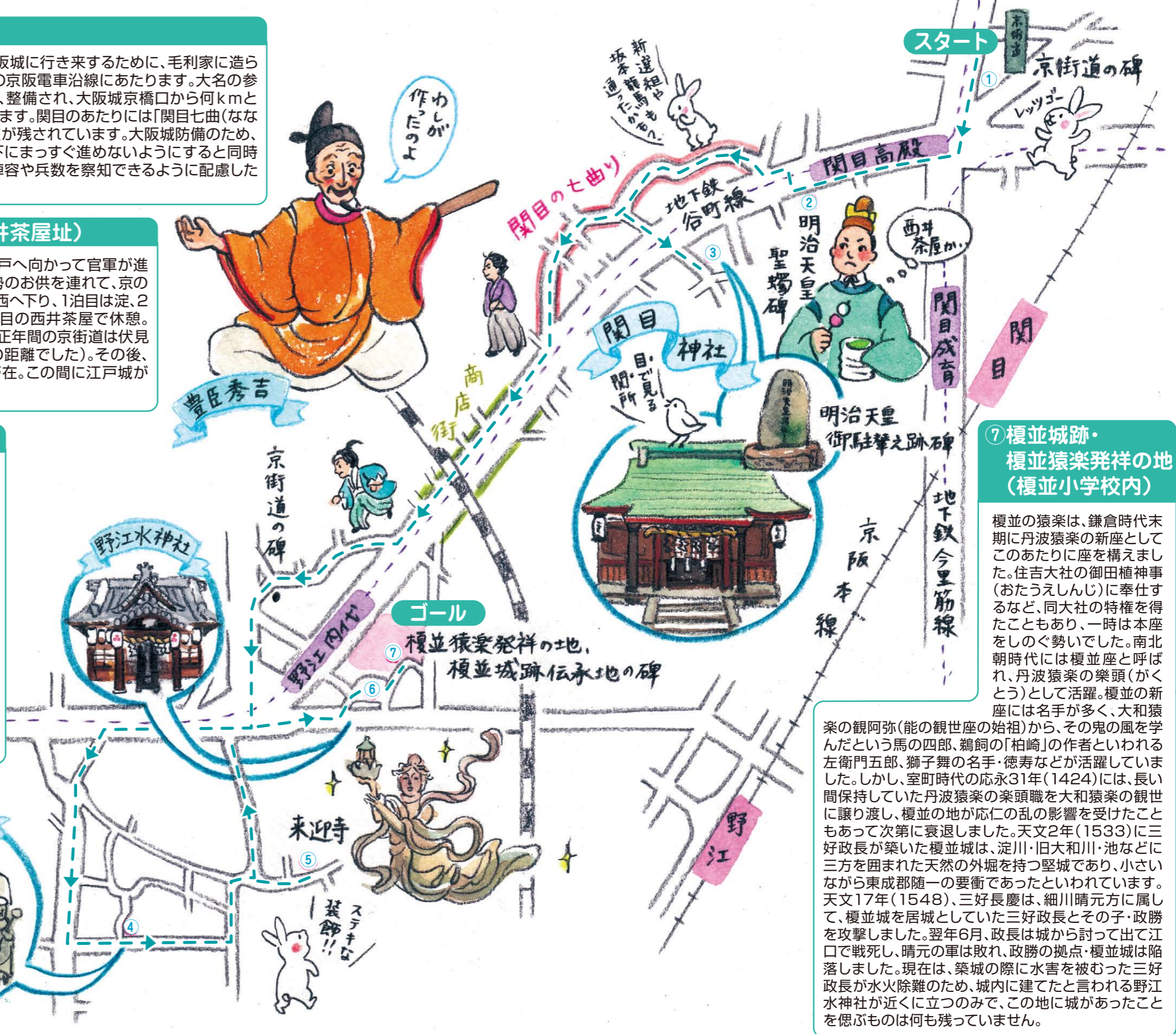
真宗大谷派、境内に慶安5年(1651)の年号の入った手水鉢があります。文化文政年間(1804～1829頃)、住職の居なくなった来迎寺の門徒に願われて、現住職の先祖が住職となり、今にいたるとのことです。榎並小学校創立(明治9年)前後は、時の住職が村の子どもたちに読み書き・そろばんを教えていたと伝わります。現在の本堂・大門・庫裏は昭和10年(1935)ごろの木造建築です。戦災を免れ、本堂には見事な欄間や柱が残されています。なお梵鐘は第二次大戦中の鉄回収で供出され、現在は鐘樓の台座のみ残っています。

### ⑥野江水神社

天文2年(1533)、三好政長が榎並城築城の折、水火除難を願って城内に小さい祠を造営して祀ったのが起源といわれています。ご祭神は「水波女大神」で、「水」を神様に祭ることは非常に珍しいといわれています。それだけ、先人たちは淀川の水害に悩まされたということなのでしょう。明治18年(1885)の大洪水の時には、この辺り一帯、3ヶ月間も水につかりました。その際、社殿も倒壊しましたが、明治21年(1888)に現在の社殿に再建されています。またその洪水のさいに流されてきたという地藏様も神社の隣に祭られています。かつて、淀川は恵みの川であるとともに、嘆きの川でもありました。

### ⑦榎並城跡・榎並猿楽発祥の地(榎並小学校内)

榎並の猿楽は、鎌倉時代末期に丹波猿楽の新座としてこのあたりに座を構えました。住吉大社の御田植神事(おたうえしんじ)に奉仕するなど、同大社の特権を得たこともあり、一時は本座をしのぐ勢いでした。南北朝時代には榎並座と呼ばれ、丹波猿楽の楽頭(かくとう)として活躍。榎並の新座には名手が多く、大和猿楽の観阿弥(能の観世座の始祖)から、その鬼の風を学んだという馬の四郎、鶯飼の「柏崎」の作者といわれる左衛門五郎、獅子舞の名手・徳寿などが活躍していました。しかし、室町時代の応永31年(1424)には、長い間保持していた丹波猿楽の楽頭職を大和猿楽の観世に譲り渡し、榎並の地が応仁の乱の影響を受けたこともあって次第に衰退しました。天文2年(1533)に三好政長が築いた榎並城は、淀川・旧大和川・池などに三方を囲まれた天然の外堀を持つ堅城であり、小さいながら東成郡随一の要衝であったといわれています。天文17年(1548)、三好長慶は、細川晴元方に属して、榎並城を居城としていた三好政長とその子・政勝を攻撃しました。翌年6月、政長は城から討って出て江口で戦死し、晴元の軍は敗れ、政勝の拠点・榎並城は陥落しました。現在は、築城の際に水害を被った三好政長が水火除難のため、城内に建てたと言われる野江水神社が近くに立つのみで、この地に城があったことを偲ぶものは何も残っていません。



【注意事項】この地図は「大阪あそ歩」のまち歩き資料として作成されました。まち歩きには、歩きやすい服装と靴を着用してください。車などによく注意し、各自で責任をもって行動してください。また、住宅地では住民のプライバシーに十分配慮して歩きましょう。

【お問い合わせ】大阪コミュニティ・ツーリズム推進連絡協議会「大阪あそ歩」事務局 電話06-6282-5930(財団法人大阪観光コンベンション協会内) 「大阪あそ歩」の詳しいプログラムはホームページをご覧ください。http://www.osaka-asobo.jp または「大阪あそ歩」でネット検索を。

大阪あそ歩のコースは約2-3km、2-3時間程度を基準として作成されています。